

2012年度事業報告書

NPO法人近畿アグリハイテク

農林水産・食品バイオテクノロジー等先端技術(以下「アグリハイテク」という)等に関する情報の収集・提供、共同研究・技術開発のコーディネート等を行うことにより、近畿地域におけるアグリハイテクの研究の推進とこれによる農林水産業及び食品産業の発展を図ることを目的として、下記の事業を実施した

1. アグリハイテクに関する研究及び知的財産情報等の収集・提供

競争的資金の公募情報や、シンポジウム・講演会の案内など、関係すると思われる情報についてはその都度同報の会員ニュースとして提供した。2012年度は講演会等のお知らせ3回、競争的資金制度公募のお知らせ15回、その他の情報提供7回の計25回メールニュースを発行した。また、適宜、資料送付の際に活動状況を報告する会員への手紙を4回送付した。

2. 共同研究形成の促進

(1) 技術シーズの発掘および生産者や企業等の研究ニーズの収集

福井県を含む近畿地域の大学、公設試、企業、団体等に対し訪問活動を行い、訪問や面談活動の中で得られた知見について、特許検索を行い、公開特許やすでに取得済み特許の中から、今後の産学連携支援活動に有効と思われるもの、期限が切れていないもの等について全文のPdfファイルを印刷・製本するとともにキーワード検索できるよう目次を作って整理した。

訪問・面談(事務所への来訪)・問合せに対する月別対応件数は次のとおりである。

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	1	4	0	3	0	1	0	1	4	3	1	18
面談	1	2	8	4	7	4	4	16	7	10	6	69
問合せ	1	5	5	1	1	3	1	1	0	5	0	23

また、訪問・面談・問合せに関するセクション別件数は次のとおりである。

	民間企業	大学	独法研究機関	公設試	産学連携機関	生産者団体	その他	計
訪問	6	6	0	4	1	0	1	18
面談	30	13	0	16	1	1	8	69
問合せ	8	6	0	3	1	1	4	23

(2) 研究者や企業等の関係者間のマッチング支援、共同研究への参画機関の紹介及び共同研究計画の作成支援

a. マッチング支援・参画機関の紹介(技術相談対応)

①合同会社Kの開発した木製の植物育成ベッドの展開方向について相談を受けた。誰をターゲットと

するかを明確にした設計が大事であること、森林組合と提携して地場産の木材を活用していることをウリにするとかのマーケティングを意識した技術開発が大事とのアドバイスをした。

- ②T社から、同社の現場で発生したトラブルの解決方策について相談を受け、K合同会社を紹介し、同社製装置を用いた試験を試みた。
- ③株式会社KT社よりイノシ忌避剤の商品化について相談を受け、商品化するためには農薬登録が必要なことを伝えると共に、登録の受け方、原材料が食品であるために免除される試験項目等についてFAMIC(農林水産消費安全技術センター)に問い合わせ、同社に伝えた。
- ④K合同会社から、障害者を雇用するイチゴ養液栽培農園の開設計画について技術相談を受けた。成功のカギは、高度のイチゴ栽培管理技術を持ち意欲の高い人材をリーダーとして得ることであり、素人がマニュアルを見て栽培するような体制では失敗する可能性が高いことをアドバイスした。
- ⑤大阪の繊維企業から、特許化した水耕栽培装置を活用して6次産業化に参入したいとの相談を受けた。誰を顧客として考え、何を提供するか、競合に対して何をウリにするかを明確にすることが先ではないかとアドバイスした。
- ⑥K合同会社から、ぎんなんの等外品を加工し商品化することについて技術相談を受け、当会が有している情報提供を行った。

b. マッチング支援・参画機関の紹介(戦略的案件形成)

- ①文科省の「地域イノベーション戦略支援プログラム」のプロジェクトディレクターの方から、農業分野の研究の進め方、等について相談を持ちかけられた。和歌山県農林水産総合技術センターの研究者を紹介し、実用技術開発(緊急対応)に共同提案できるようにした。
- ②奈良県の「地域イノベーション戦略推進地域」プログラムに参加している奈良県農業総合センターの研究者と、同じ伝統野菜の機能性研究を行っている京都府農林水産技術センターの研究者とのマッチングを試み、京都府大、近畿大学と4者の共同研究で、実用技術開発(緊急対応)に共同提案できるようにした。
- ③T社(株)が有している開発中のシーズを東北の放射能除染に使えないかとの相談を受け、農研機構東北農業研究センター(福島)との連携を企画し、現地での実証試験ができるようにした。
- ④P社(株)の有している技術シーズを植物工場で活用できないかとの相談を受け、面談の中で研究すべき課題を明確にした上で、大阪府大植物工場研究センターを紹介し、研究コンソーシアムへの参加を可能にした。
- ⑤O社(株)から自社の計測技術を農業現場で活用できることはないかとの相談を受け、面談の結果、茶の生育診断を簡便にしたいというニーズをもっている京都府農林水産技術センター農林センター茶業研究所を紹介した。
- ⑥溶融スラグと浄水スラッジ等産廃物を原料とする人工土を製造している企業(株)から、用途拡大のための技術開発の相談を受け、高知大学農学部の実験室を紹介し、両者の共同研究をコーディネートし、両者による競争的資金の応募(A-Step、農食研究推進事業)を支援した。また、植物栽培用土としての開発試験実施の相談を受け大阪府環境農林水産総合研究所を紹介した。
- ⑦K食品(株)より外マトのフリーズドライ製品の品質保持期間を現状の3~5倍に長期化できる技術の開発について相談を受け、最適な共同研究相手候補として(財)食感性コミュニケーションズを見出し、紹介した。
- ⑧T食品(株)から菓子パンのクリームの原料として常用される食用油脂の、低カロリーかつコスト高に

ならない代替品の開発についての共同相手の紹介を依頼され、岩手大学教授を紹介するほか、神戸大学連携創造本部及びひょうご神戸産学学官アライアンスと連携を取り、神戸女子大教授を紹介した。

- ⑨ソデイカからコラーゲンを分離精製する技術を開発している福井県立大学准教授のシーズと、食用ゼラチンメーカーのY社(株)の新商品開発のニーズについてマッチングを試みた。

c. 共同研究の計画策定支援

立命館大学久保教授が開発した土壌肥沃度指標 (SOFIX) に基づく環境保全型農業技術を現場実証して開発課題の深化を図るため、JAおうみ富士傘下のなばなおうみの会との連携強化を行った。JAおうみ富士では、しが新事業応援ファンドに応募・採択された「守山市地域資源菜の花(なばな)を活用した加工商品開発事業」を推進しており、この活動を支援した。そこから明らかになったいくつかの課題について、課題化の検討を行い、農林水産省の委託プロジェクトへの応募を行った。

(3) 外部資金の取得支援

農林水産省の競争的資金制度が変更になることに加え、制度説明会の開催が2013年2月に入ってからになるということから、今年度は産学官連携共同研究推進会議を開催せず、個別対応とすることとした。今年度、ブラッシュアップ等の支援を行った課題は以下のとおりである。

事業名	支援課題数	採択数
A-Step	3	1
実用技術開発事業(緊急対応)	2	2
科研費(挑戦的萌芽5、若手B1、基盤C1、基盤A・B1)	8	3
シーズ創出ステージ	2	未定
発展融合ステージ	3	未定
実用技術開発ステージ	10	未定
計	28	

(4) 知的財産のマネジメント支援

立命館大学久保 幹教授らの開発した土壌肥沃度指標による土壌診断技術に対して、SOFIXの名称を提案したが、この名称を商標登録することを勧めていた。2011年8月30日付けで出願していた商標登録が2012年5月11日付けで登録となった(登録番号第5491625号)。

(5) 産学連携に関する各種支援制度や支援機関の紹介

近畿農政局と共同で2013年度競争的資金制度説明会を開催し(2013年2月13日)、農林水産省の3制度と委託プロジェクト等およびJSTの2制度(A-Stepと先端計測分析技術・機器開発プログラム)の紹介をしていただいた。105名の参加を得た(内訳:民間企業等19、公設試35、大学等32、独法6、府県行政4、国行政7、事務局2)。説明会終了後個別相談を行い、10件の相談を受けた。また、福井県立大学の研究者を対象に、農林水産省の競争的資金制度の説明会を開催した(2013年2月28日)。また、以下にあげた各省庁の競争的資金制度の募集にあわせて、メールニュースで情報

提供を行った。

- ・平成24年度戦略的基盤技術高度化支援事業(サポイン)の公募(4月18日)
- ・JSTの復興関連プロジェクトの募集開始(4月20日)
- ・農林水産省の6次産業化支援補助事業募集(4月24日)
- ・経済産業局の地域イノベーション創出実証研究補助事業(補助金)(5月7日)
- ・A-Stepの24年度第2回公募と近畿での公募説明会(6月4日開催)(5月25日)
- ・近畿地方における公募説明会の追加開催(6月18日～28日)(5月31日)
- ・農林水産省の6次産業化推進整備事業の公募(6月21日)
- ・農林水産省のレギュラトリーサイエンスの公募開始(2月1日)
- ・農林水産省の委託プロと競争的資金の公募開始(2月8日)
- ・農林水産省の機能性農林水産物・食品開発プロの情報(3月1日)

また、下記の様な、民間の競争的資金制度についても適宜情報提供を行った。

- ・三菱UFJ技術育成財団の中小企業支援助成金交付事業(4月12日)。
- ・(財)生産開発科学研究所の学術奨励資金の公募(4月26日)

(6)研究会活動の促進

現在、「近畿地域大豆研究会」、「明日の農と食を考える研究会」の2つの研究会活動を支援している。

「近畿地域大豆研究会」では、独法・公設試など研究機関の成果情報、学会誌等の文献情報、特許情報を中心とした「近畿地域大豆研究会ニュース」を、6月、9月、12月、3月の4回発行した。

「明日の農と食を考える研究会」では、自然循環型農業の推進支援ツールSOFIXの普及を目指して、公開講演会や会員交流会の開催、解説マニュアルの作成検討を行うほか、競争的資金制度への応募などの活動を支援した。

(7)産学連携に関する地域内の体制整備と連携強化

- ①福井県立大学と「産学連携推進の協力をに係る協定」を締結した。
- ②神戸大学連携創造本部案学連携コーディネーターが担当している課題を農水省の競争的資金制度に応募するに際し相談を受け、対応した。
- ③ひょうご産学官連携コーディネーター協議会のネットワーク構築交流会に参加を依頼され、出席し、近畿アグリハイテクの活動について報告した(9月26日)
- ④大阪府立大学産学官連携機構リエゾンオフィスのコーディネーターが担当している課題について、6次産業化への展開の可能性の相談を受け対応した。
- ⑤立命館大学リサーチオフィス所属のコーディネーターに対する研修の一環として講師を依頼され、「アグリビジネスのコーディネート」について講演を行った。
- ⑥立命館大学久保教授開発のSOFIX技術を深化・普及させるために、明日の農と食を考える研究会で、議論を進め、現地実証試験を行っているが、現地での栽培試験を支援していただいているJAおうみ富士おうみんちの部長にも幹事会に参加いただきより一層連携を強化できるようにした。
- ⑦近中四農研推進会議作物生産推進部会が開催した「生物工学分野におけるシーズ・ニーズのマッチングフォーラム」に参加して活動報告を行った。

3. 産学連携の促進・交流の場の提供

(1) 技術交流展示会の開催

フードテック2012(2012年9月12日～14日、インテックス大阪)に出展すると共に、「メイド・イン・キャンパス ぐるめ街道」と「活力ある「農・林・水・食」研究開発コーナー」のコーナーをコーディネートした。3日間の総来場者数13,615名であった。近畿アグリハイテクのブースでは、JAおうみ富士おうみんち・なばなおうみの会のなばな加工食品の試食評価を企画し、3日間で44社と名刺交換を行った。

9月14日には、「赤や紫！農研機構が育成したカラフル作物が食卓を彩ります」というテーマでセミナーを開催し、74名の参加を得た。

内容 1. 「消費者が求めている機能性農作物はこれだ！！」

農研機構九州沖縄農研センター作物機能・利用研究領域主任研究員 後藤一寿 氏

2. 「使い方いろいろ！“カラーいも”～紫サツマイモで新メニューの開発」

農研機構九州沖縄農研センター畑作研究領域上席研究員 吉永 優 氏

3. 「思わず手にとりたくなるカラフルポテト～「赤」「紫」のジャガイモで新メニュー開発を～」

農研機構北海道農研センター企画管理部研究調整役 森 元幸 氏

4. 「抗酸化機能を含んだポリフェノールの多い有色米たち」

農研機構東北農研センター水田作研究領域主任研究員 梶 亮太 氏

(2) 講演会の開催

総会にあわせて開催している講演会を、2012年6月12日に開催した。今回は、江戸川大学社会学部現代社会学科教授 鈴木輝隆氏に、「最新住民活動にみる地域づくりのポイント～あのひとが面白い、あのまちが面白い・「ろーかるでざいんのおと～」という題でお話いただき、59名の参加を得た。

(3) シンポジウム等の開催

1) 第55回近畿アグリハイテクシンポジウム

バイオビジネス創出研究会(長浜市)のアグリビジネスカフェと共催で、「滋賀の伝統野菜を考える」(2012年8月29日、長浜バイオ大学)を開催し、72名の参加を得た。

内容 1. 「遺伝資源から見た滋賀の伝統野菜」 滋賀大学名誉教授 木島 温夫 氏

2. 「食文化から見た滋賀の伝統野菜」

滋賀大学名誉教授・京都華頂大学教授 堀越 昌子 氏

2) 近畿産大豆生産・需要拡大協議会シンポジウム「国産(地元産)大豆の魅力と優位性」(201

3年2月26日、京都テルサ)を、近畿産大豆生産・需要拡大協議会、全国農業改良普及支援協会、近畿農政局と共同で主催し、91名の参加を得た。

内容 1. 「世界へアピールする、生産者と連携した付加価値の高い商品づくりに向けて」

(株)比叡ゆば本舗 ゆば八 代表取締役 八木 幸子 氏

2. 「国産大豆に求められるもの」 (有)久在屋 代表取締役 東田 和久 氏

3. 「収量と品質を向上させる大豆生産への取組」

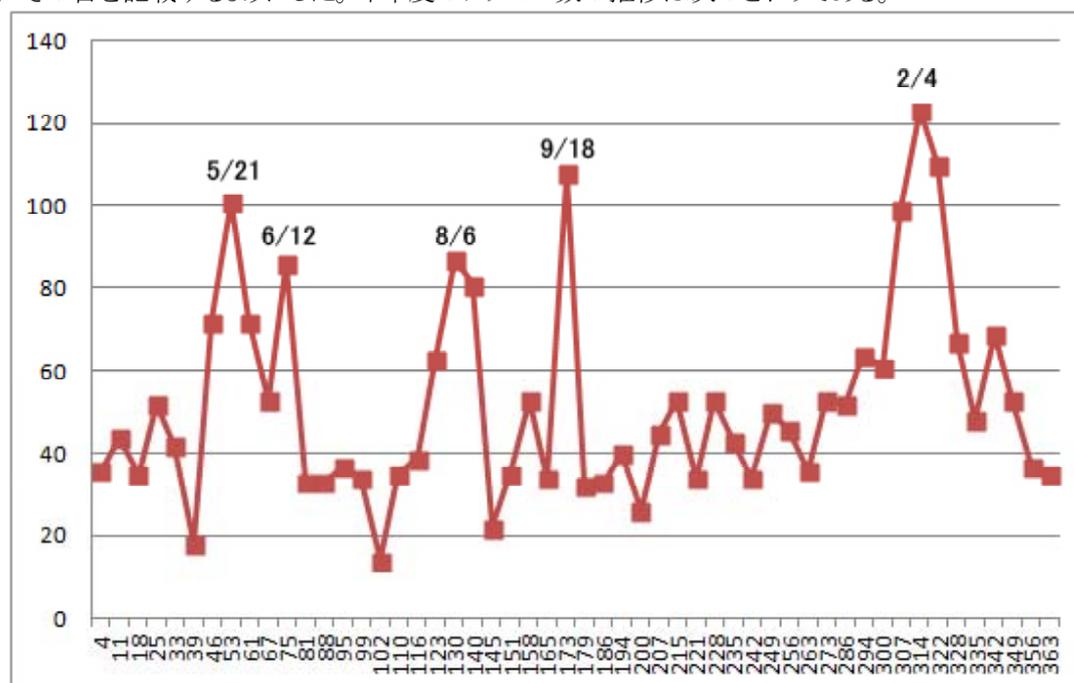
(株)イカリファーム 取締役 井狩 篤士 氏

3) その他、依頼により、下記のシンポジウム等を後援・共催した。

- ①近中四農研主催の、平成24年度農研機構シンポジウム「イチゴの安定生産技術と新品種育成の
前線」(2012年10月24～25日)の後援を行った。
- ②農林水産技術会議事務局・近中四農研主催の平成24年度近畿地域マッチングフォーラム「特徴
のある和牛肉を消費者へー国内の飼料資源を活用してー」(2012年11月13～14日)を協賛し
た。

(4) インターネット等による情報発信の充実・強化

近畿アグリハイテクのホームページは適宜更新を行い、主要な更新を行った時には、トップページにその旨を記載するようにした。昨年度のアクセス数の推移は次のとおりである。



4. その他の活動

- ①「近畿産業連携ネットワーク交流会」(2012年9月27日、近畿農政局主催)に参加し、情報収集を行った。
- ②2012年10月23日に開催された「近畿地域研究・普及連絡会議」に出席し、意見交換を行った。
- ③「平成24年度農業経営者交流会」(2013年1月30日、日本政策金融公庫主催)に参加し、情報収集を行った。
- ④平成24年度地域産学連携支援委託事業実務者会合「委託事業活動報告会～農林水産・食品産業分野の産学連携は何が新しいのか～」(2013年2月5日)に参加し、近畿アグリハイテクの活動について報告を行うとともに、議論に参加した。報告書の全文は、
<http://www.agri-renkei.jp/news/docs/manual201303.pdf> に掲載されている。
- ⑤JAおうみ富士開催の「守山市地域資源なばなの加工商品開発事業」推進会議に出席し、議論に参加した。
- ⑥京都府農林水産部が開催した「『元気で安全！』京のこだわり畜産アクションプラン」検討委員会(7月11日、7月30日、8月21日、8月28日、11月12日)に座長として参加した。
- ⑦「ふくいの農業のあり方検討会」(福井県農林水産部)に委員として参加し、討論に参加した。

《参考》

組織運営について

1)理事会の開催

2012年6月12日(火)11:00～12:10メルパルク京都(4階、研修室1)において、理事17名のうち、出席12名、書面表決4名で理事会を開催した。事務局より、総会に付議する事項(第1～第5号議案)が提案され、全て了承された。

2)総会の開催

2012年6月12日(火)13:00～14:00メルパルク京都(6階、会議室D)において、正会員122名のうち、出席23名、委任状48名の参加で総会を開催し、提案したすべての議案が了承された。